

2019年度キッズナース事業

—— 小学生の保護者が捉える地域の医療を担う人材育成の現状と課題 ——

棧敷久美子・吉村尚美・渡部光恵・小川佳代・長尾多美子・富澤栄子

Kids Nurse Project2019

—— Perceptions of elementary school pupils' parents on the current situation and problems related to the next-generation's personnel development for local medical service ——

Kumiko SAJIKI, Naomi YOSHIMURA, Mitsue WATANABE, Kayo OGAWA,
Tamiko NAGAO and Eiko TOMIZAWA

ABSTRACT

Purpose :

The purpose of this study is to clarify how parents of the elementary school student who participated in Kids Nurse Project perceived the next-generation's personnel development for local medical service.

Method :

A self-administered anonymous questionnaire survey was conducted for parents of the elementary school student who participated in Kids Nurse Project in August, 2019.

For basic attributes, description statistics were calculated, and "Incentive that motivated the children for participation in Kids Nurse Project" and "Ideas about personnel development for the next-generation's medical service in the local community" were classified inductively by their similarity in accordance with their meaning and contents.

Results :

For the incentive that motivated the children for participation in Kids Nurse Project, the following 6 categories were extracted; <I wanted my child to experience various things>, <I want my child to utilize the experience the future career decision>, <My child is interested in healthcare occupations>, <I, myself (guardian), am interested in nursing profession and school of nursing> and <I was recommended by a friend>. For the ideas about personnel development for the next-generation's medical service in the local community, the following 4 categories were extracted; <I want the place for the experience related to healthcare occupations to be enriched>, <I want the nursing education organization in prefecture to be enriched>, <Maintenance of the labor circumstances of healthcare workers is required> and <I actually feel lack of human resources>

KEYWORDS : Kids nurse project, elementary school student, parent, regional medicine, next-generation's personnel development

I, はじめに

徳島県の高齢化率は全国でも上位となっており(内閣府2019), 他の都道府県への転出超過は20歳代が最も多くなっている(徳島県2020)。このことから徳島県では医療・福祉分野ではケアを受ける対象者は高齢化により増える一方, ケアを提供する医療・福祉職は, 次世代を担う人材不足が問題となってくる。看護学部では, 平成27年度四国大学学術研

究助成金を得て, 将来地域で医療福祉を担う, 地域の人材(小学生)を対象にキッズナース育成事業(以下, キッズナース事業)を展開してきた。キッズナース事業とは地域の中核病院や自治体と連携し, 中核病院近辺または当大学近辺の小学生を対象として当大学に招き, 看護学部学生による授業及びナース体験を実施する。その後, 地域の中核病院を見学していただき, 医療・看護に興味を持ってもらえるよう計画した事業である。このプロセスの中で将来, 地

域で医療福祉に貢献できる人材の育成と地域医療福祉を地元の人材で賄うという人材の循環を目指した取り組みである。事業に参加した小学生の多くはキッズナース事業での体験を楽しいと捉え、将来地元に住みたい気持ちがある者は、看護師を有用な職業であると認識しており、看護師への興味が高いことがわかった(吉村2019)。今回、次世代を担う子どもを育てている小学生の保護者がキッズナース事業へ参加する子どもへの思いや地域の医療福祉の将来についてどのような思いを抱いているのかを分析し、今後の取り組みへの示唆を得たいと考えた。

本研究の目的は、キッズナース事業に参加した小学生の保護者が地域の医療を担う次世代人材育成についてどのように捉えているかを明らかにすることである。

II, 研究方法

1, 調査の手順

2019年8月に実施したキッズナース事業に参加した小学生の保護者に自記式無記名質問紙調査を実施した。子どもと一緒に参加した保護者には回収箱への投函を依頼し、一部は郵送調査法にて回収した。

2, 調査内容

基本属性(性別, 年齢, 職業)及び「子どもがキッズナース事業に参加した動機(自由記述)」「地域における次世代の医療を担う人材育成について思うこと(自由記述)」とした。

3, 分析方法

基本属性は記述統計量を算出し、「子どもがキッズナース事業に参加した動機」「地域における次世代の医療を担う人材育成について思うこと」については、意味内容に応じてその類似性により帰納的に分類し、カテゴリー化した。

4, 倫理的配慮

研究目的, 参加の自由, 無記名で行うことを口頭と文書で説明し, 同意が得られた参加者に質問紙を

配付した。当日参加できなかった保護者には文書を同封し, 調査用紙への回答をもって, 同意を得た。本研究は四国大学倫理審査委員会の承認を得た(承認番号30012)。

III, 結果

1, 基本属性(表1)

25名中20名の保護者から回答が得られ, 回収率80%であった。回答者はすべて女性であり, 平均年齢42.7±3.6歳であった。職業は一般会社員, 自営業等が8名と最も多く, 医療関係職, 福祉関係職, 主婦がそれぞれ4名であった。

表1 対象者の基本属性 (n=20)

	n	%
性別 女性	20	100
年齢 30代	4	20
40代	15	75
50代	1	0.5
職業 一般会社員・自営業	8	40
医療関係職	4	20
福祉関係職	4	20
主婦	4	20

2, 子どもがキッズナース事業に参加した動機(表2)

〈色々な経験をさせたい〉〈将来の職業選択につなげてほしい〉〈子どもが医療職に興味がある〉〈保護者自身が看護職や看護学部に興味がある〉〈子どもの友人からの誘い〉の6カテゴリーが抽出された。

3, 地域における次世代の医療を担う人材育成について思うこと(表3)

〈医療職に関連した体験の場を充実してほしい〉〈県内の看護教育機関が充実してほしい〉〈医療従事者の労働環境の整備が必要〉〈人材不足を実感する〉の4カテゴリーが抽出された。

表2 子どもが参加したきっかけあるいは子どもと一緒に参加した理由について

カテゴリー	代表的データ
色々な経験をさせたい	色々な経験をしてほしい（3） 私たちだけでは視野が狭いので知らないことを新たに経験できる 今は色々な経験をする中で、自分の興味のあるものを見つけてほしいと思 い参加 夏休みという事でいい経験ができると思参加（2） 貴重な体験だと思、参加
将来の職業選択につなげてほしい	職業選択の幅が広がるから 将来のやってみたい仕事につなげてほしい（2） 子どもの可能性が少しでも広がればいいなと思う これを機に将来、看護師の道への選択も視野に入れてくれたらいいなと 思う 将来の職業の一つの選択となってもらえばと思う
子どもが医療職に興味がある	子どもが医療・看護職に興味がある（3） “看護師になる”が小さい頃からの夢で、子供が行きたいと言った
保護者が看護に興味がある	親としても看護師になって欲しい（2） 四国大学は看護学部があるため見学したいと思った 親族に看護学校に通っている者が居て、単純に興味を持っていた 看護の知識は将来に役立つと思う
子どもが事業内容に興味があったため	子どもが体験してみたいと言った 白衣を着て体験できるのも、とても楽しみにしていた 子どもはナース服が着られる、赤ちゃんのお世話が出来ると言って参加 した 学校より手紙（チラシ）を持ち帰ってきたときに自分から「行きたい」 と話してきた
子どもが友人から誘われた	子供の同級生にすすめられて参加 友達に誘われて参加した

IV、考察

参加した動機について、子ども自身が看護師等に興味を持っているためと答える保護者がいる一方、保護者自身が看護師等の医療職に興味があると答えており、子どもの将来の職業として、医療職者を目指してほしいという思いがあることが推測された。小学生への調査（吉村2019）では、看護師への興味について、「人の役に立ちたい」「社会の役に立ちたい」「人の体や心に関する学習に興味がある」の項目が高かったのに対し、看護学生への入学時での調

査（村中2002）では「収入が安定している」ことが入学の動機として相関があることが示されており、看護職を志望する理由として、経済的な安定性を意識していくのは小学生以降と推察される。小学生の保護者にとって、子どもが医療職者を選択することを希望する理由としても社会的・経済的な安定性が興味を抱く要因となっていることが考えられる。一方、保護者は過疎化が進む地域における医療についても整備が必要であると認識していると考えられる。将来の職業選択として、看護師を含む医療職者を希

表3 あなたの住んでいる地域における次世代の医療を担う人材の育成について思うこと

カテゴリー	代表的データ
医療職に関連した経験の場の充実を希望	体験する場をもっとふやして、子供達に医療に興味をもたせてほしい 今回の事業みたいなのが医療機関へすすむ人が増えるきっかけのひとつになればいいと思う もっと体験出来る場を作ってほしい 子供向けの体験などができる事業を増やし医療に興味を持てるようになればと思う キッズナース事業をぜひ続けてほしい
県内の看護教育機関が充実してほしい	学校など学ぶ場所が県外に行かないといけないというのも聞いたりしますし、医学も都会以外は遅れているような気がする 今後の医療のことを考えるともっと重視してほしい 身近な場所に看護師を育成する大学あるということは医療の充実も含めて、とてもいいことだと思う
医療従事者の労働環境の整備が必要	将来結婚してからでも働きやすい環境作りに努めてほしい 今後も、志を持った看護師の方が増える様、労働環境を整え、誰もが働きやすい職業になっていく事を祈る 大切な医療を担う人の為に働きやすい環境があれば良いのかと思う
人材不足を実感する	どの業界でも人材不足といわれていますが、医療関係ではそれがあってはならないことだと思う 最近は新聞広告等を見ても、一面を使用した病院の看護師募集広告などがあり、増加する高齢人口に対し、医療従事者が不足しているのだなぁと感じる 高齢化が進み少子化になり、増々人材不足になる こどもたちの将来を考えると不安としか思い当たりません

望する自身の子に対して、協力したいという気持ちや色々な経験をして将来の職業選択につなげてほしいという思いがあることがわかった。そのうえで、医療福祉への関心が高まるよう、今後も体験の場を増やすなどの取り組みを期待していることが示唆された。

V、今後の課題

2015年度より開始されたキッズナース事業は、徳島県内の三好・美馬地区、勝浦地区そして、徳島市内を対象に小学生、中学生の応募者を招き、事業を展開してきた。今後、これらの事業のまとめを行い、医療の面から地域活性化に貢献できるような具体的な取り組みについてさらに検討を重ねていきたい。

参考文献

- 1) 内閣府：令和元年版高齢社会白書
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/html/zenbun/s1_1_4.html, 2020. 10. 5
- 2) 徳島県人口移動調査年表
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/statistics/year/idou/>, 2020. 10. 5
- 3) 吉村尚美, 渡部光恵, 長尾多美子他, 2019. キッズナース事業における参加小学生の看護師への興味と地元志向の関係. 四国大学看護学研究所年報11: 19-26
- 4) 村中洋子, 滝島紀子, 青木涼子他, 2002. 看護学科学生の入学時における看護専門職への志向と認識. 東海大学健康科学部紀要 8: 105-113

抄 録

目的：研究の目的はキッズナース事業に参加した小学生の保護者が地域の医療を担う次世代人材育成についてどのように捉えているかを明らかにすることである。

方法：2019年8月にキッズナース事業に参加した小学生の保護者に自記式無記名質問紙調査を実施した。基本属性は記述統計量を算出し、「子どもがキッズナース事業に参加した動機」、「地域における次世代の医療を担う人材育成について思うこと」については、意味内容に応じてその類似性により帰納的に分類し、カテゴリー化した。

結果：子どもがキッズナース事業に参加した動機として、〈色々な経験をさせたい〉〈将来の職業選択につなげてほしい〉〈子どもが医療職に興味がある〉〈保護者自身が看護職や看護学部に興味がある〉〈子どもの友人からの誘い〉の6カテゴリーが抽出された。地域における次世代の医療を担う人材育成について思うことについては、〈医療職に関連した体験の場を充実してほしい〉〈県内の看護教育機関が充実してほしい〉〈医療従事者の労働環境の整備が必要〉〈人材不足を実感する〉の4カテゴリーが抽出された。

キーワード：キッズナース事業，小学生，保護者，地域医療，次世代育成